

平成27年度 事業報告

(平成27年4月1日から28年3月31日まで)

I 病院ボランティアに関する事業

平成27年度も昨年同様、沖縄県社会福祉協議会の民間福祉基金助成の補助をいただき、実施することができました。心より感謝申し上げます。わらびの会10周年を機に琉球大学医学部附属病院小児科外来でも活動を開始することができました。開始にあたり、約1年をかけ10回の打ち合わせ会を琉大附属病院の小児科医師、看護部、事務部、わらびの会と行いました。養成講座の名称も19期講座から「こども支援病院ボランティア養成講座」と改め、こども医療センターと琉大附属病院小児科で活動するボランティアを募集しました。

1) こども医療センターにおけるボランティア活動の支援

- ① ボランティアスキルアップ勉強会開催
テーマ：ボランティア活動10年を振り返って
講師：藤村 真弓（成増高等看護学校 専任講師）
日時：平成27年11月19日（木）12：30～14：30
場所：こども医療センター2階 講堂
- ② 「病院ボランティア小委員会」参加（6/4, 6/25, 7/23, 8/20, 9/24, 11/26, 2/24, 3/23）

2) 琉球大学医学部附属病院小児科外来において活動開始

- ① 琉球大学医学部附属病院ボランティア導入に向けて意見交換会・打ち合わせ会開催
於：琉球大学医学部附属病院（5/26, 6/10, 7/30）
参加者：小児科医師・看護部・コーディネーター・事務部・わらびの会
- ② 19期養成講座を受講した3名が病院でのオリエンテーションと実習を受け、抗体検査をクリアして10月から小児外来で活動を開始。20期養成講座終了者のうち4名がオリエンテーション・実習を受け、抗体検査後2名活動に入る。

3) 病児家族の支援活動をする病院ボランティア養成講座の実施

於：県立南部医療センター・こども医療センター

《第19期こども支援病院ボランティア養成講座》 受講生42人

日時：8月22日（土）9:00～17:00

①講座1

「あなたのことも大好きです 一病む人の家族に私たちができること」

講師：藤村 真弓（成増高等看護学校 専任講師）

DVD 「拡がる病児のきょうだい支援」 視聴



[第19期 養成講座 風景]

②講座 2

「私たちが望むボランティア ～ 医師の立場から ～」

講師：金城 僚（県立南部医療センター・こども医療センター 小児外科）

③講座 3

「医療センターの感染症対策 ―感染症と予防接種―」

講師：安慶田 英樹（県立南部医療センター・こども医療センター 母子センター長）

④ 講座 4

「私たちが望むボランティア ～ 看護の立場から ～」

講師：玉那覇 美佐枝（県立南部医療センター・こども医療センター 看護師長）

講師：小渡 清江（琉球大学医学部附属病院 副看護部長）

④講座 5

「ボランティアに必要なマナーとコミュニケーション」講師：喜久里 美也子（脳文庫主宰）

⑤講座 6

「グループワーク&まとめ」

講師：先輩ボランティア 11人、受講者全員



〔講座 6/グループワーク〕

《第 20 期 こども支援病院ボランティア養成講座》受講生 19 人

日 時：平成 28 年 2 月 13 日（土）9:00～17:00

① 講座 1

「あなたのことも大好きです ―病む人の家族に私たちができること―」

DVD 「拡がる病児のきょうだい支援」 視聴

講師：藤村 真弓（成増高等看護学校 専任講師）



② 講座 2

「私たちが望むボランティア ～ 医師の立場から ～」

講師：金城 僚（県立南部医療センター・こども医療センター 小児外科）

③ 講座 3

「医療センターの感染症対策 ―感染症と予防接種―」

講師：安慶田 英樹（県立南部医療センター・こども医療センター 母子センター長）

④ 講座 4

「私たちが望むボランティア ～ 看護の立場から ～」

講師：比屋根 三和子（県立南部医療センター・こども医療センター 小児外来看護師長）

講師：小渡 清江（琉球大学医学部附属病院 副看護部長）

⑤ 講座 5

「ボランティアに必要なマナーとコミュニケーション」

講師：喜久里 美也子（脳文庫 主宰）

⑥ 講座 6

グループワーク&まとめ

講師：先輩ボランティア 14人、受講者全員



II 遠隔地病児家族等の宿泊施設運営事業

1) ファミリーハウス「がじゅまるの家」(以下ハウス)の受託運営等

① ハウス運営-スタッフ 11人(2月より10人)によるシフト制 ~ 24時間365日稼働。

ナイトマネージャー 平成27年11月より有償ボランティアとして活動登録

(平成28年1月31日付け1人登録解除)

平成27年度 利用者延べ人数 4,724人(病児699人含)。

居室 稼働率 平均64.4%。

② スタッフ会議(毎月第2月曜日10時~12時:全スタッフ・事業団参加)

ハウスマネージャー会議(第3木曜日14時~16時)、ナイトマネージャー会議(第2月曜日12時~)を開催。利用者が安心して安全に過ごして頂けるよう、ホスピタリティーなハウス運営を目指し諸課題の検討を行った。

③ ハウス事業報告書提出(事業報告、宿泊者名簿、会計収支報告、予算請求書)毎月事業団へ

④ ハウス運営協議会開催(2015.10/26)

参加: 県保健医療部健康長寿課、県立南部医療センター・こども医療センター、事業団、わらびの会、ハウスマネージャー)

周産期利用者について、利用対象者はハイリスク妊婦と謳っているが、スタッフでは判断できないので、受け入れに苦慮している。超低出生体重児出産後の長期滞在(約4ヶ月)のため、病児家族が利用できない時がある。臨月の妊婦の1人利用は特にナイトマネージャーの不安が大きい等の課題に対して、ハイリスク妊婦については個人情報になるので利用者個人から直接傾聴する方法しかない。長期滞在については、ハウスは病院に近い、母親にとっては安心できる場所であり、支援が必要なのでハウス滞在できると良いとの意見がだされました。

また、会議や研修会・勉強会、施設見学者への対応等効率的運営を図るために中庭ピロティ部分42m²を多目的室に利用できる部屋として増築決定、(株)沖電工と設計・工事の契約がなされ27年度中に着工予定でしたが、28年度に繰越された。

⑤ ハウススタッフに対する抗体検査(B・C型肝炎、麻疹、ムンプス、風疹、水痘)が病院職員と同様に6月1日~6月5日にかけて実施された。また、11月9日~19日にインフルエンザワクチンの接種を実施していただいた。

2) スタッフ研修会・講習会・勉強会

① がじゅまるの家消防訓練(2回)実施(6/8,12/14)、施設の定期自主検査を行い利用者の安全に努めた。

- ② スタッフ AED 講習会 (8/10) 講師：島元秀文氏 (フクダ電子)
- ③ 第 16 回 J H H H ネットワーク会議参加 (10/18 於：北海道札幌市在 北海道大学 3 人参加)
- ④ そらぶちキッズキャンプ施設見学 (10/17)
- ⑤ フードバンク活動報告および情報交換会参加 (2/19)

3) 「がじゅまるの家」視察見学者

- ① パーソナルサポートセンター受講生 5 人・職員 5 人ハウス見学 (説明) (5/29)
- ② 東京おもちゃ美術館スタディーツアー沖縄 38 人ハウス見学 (説明) (5/31)
- ③ 沖縄国際大学人間福祉学科社会福祉専攻 2 年生 17 人と教授ハウス見学 (説明) (9/6)
- ④ 平成 27 年度 25 期 かりゆし長寿大学校健康福祉学科火曜日コース 32 人、木曜日コース 30 人来訪
わらびの会の会活動について説明・ハウス見学 (9/8・9/10)
- ⑤ 県立看護大学学生 ハウス訪問 (12/17)
- ⑥ その他、個人多数

4) ハウス利用者との交流

- ① 第 3 回 わらびの会合同クリスマス会が 12 月 12 日、こども医療センターにて開催され、ハウス利用者も家族で参加し、子どもたちはおもちゃひろばやステージで遊び、また、在沖米空軍嘉手納基地ボランティアグループのサンタさんよりプレゼントもいただきました。保護者の皆さんは、ゆんたくカフェでくつろいで頂きました。
恒例のがじゅまるの家クリスマス会 (12/21) は、スタッフの手作り料理に舌鼓をうちながら利用者・スタッフともにビンゴゲームを楽しみました。
- ② わらびの会新年会 (1/13) に利用者も参加いただき、わらびの会理事、ハウススタッフともに交流を深めました。
- ③ 日本盲導犬協会の協力で盲導犬がハウス訪問、こどもたちとふれ合い、楽しい一時を過ごしました (8/20・2/12)。

5) ボランティアによる活動

- ① かりゆし長寿大学校 23 期生 12 人の皆さんによる清掃ボランティア (6/25)
- ② 沖縄電力 (株) おきでん対話旬間による「がじゅまるの家」清掃ボランティア (44 名) (11/7)
- ③ 明治安田生命保険会社職員 10 人 清掃ボランティア (12/19)
- ④ 個人による清掃ボランティア

* 毎週木曜日 10 時～12 時 手づくりボランティアフルール活動

* 毎週火曜日 10 時～12 時 清掃ボランティア活動

Ⅲ 広報活動

1) わらびの会 10 周年記念「こども医療支援 未来へつなげるプロジェクト」

パネル展示キャラバン

わらびの会 10 周年を機に会を多くの皆さまに知っていただきたいとの思いで、パネル展示キャラバンを企画しました。わらびの会が現在行っている各種事業やこれまでの歩み、そしてこれからの想いをパネルに込め、県内各地の病院で展示させていただきました。

パネル展示会場一覧

- ・ 沖縄県立 北部病院
- ・ 沖縄県立 中部病院
- ・ 琉球大学医学部附属病院
- ・ 地方独立行政法人 那覇市立病院
- ・ 沖縄県立 南部医療センター・こども医療センター
- ・ 沖縄赤十字病院
- ・ 沖縄県立 宮古病院



また、みんなの夢や希望を大きな木に託したいという発想を基に、「きぼうのがじゅまるプロジェクト」も並行して実施いたしました。パネル展示とともに夢や希望を記すリーフを設置し、観覧くださった皆さまにご記入いただきました。これらのリーフをクリスマス会ボランティアの皆さまに作成頂いた大木の土台に貼り付け、一つの大きなモニュメントとして仕上げることができました。27 年 12 月に実施した合同クリスマス会で「きぼうのがじゅまる」をお披露目しましたが、28 年に予定している 10 周年記念イベントでも再度お披露目いたします。

今回のパネル展示キャラバン、そしてきぼうのがじゅまるプロジェクトを実施するにあたり、快く展示会場をご提供くださった病院の皆さま、ご協力くださったボランティアの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

2) 病児家族の懇談会(ワークショップ)

①北部地域ワークショップ

- ・ 日 時 : 2015 年 9 月 21 日
- ・ 場 所 : 障がい児者親の会「綾の会」事務所
- ・ 参加者 : 当事者 8 家族、支援者 1 名、わらび事務局 5 名

②宮古島ワークショップ

- ・ 日 時 : 2015 年 11 月 1 日
- ・ 場 所 : 宮古島 あさひっこ保育園
- ・ 参加者 : 当事者 11 家族、支援者(相談員 2 名、役所保健師 1 名)、わらび事務局 3 名
- ・ 子どもたちの疾患

心疾患、脳性まひ、滑脳症、歌舞伎症候群、筋ジス、食物アレルギー、難聴

第一部

参加者お一人ずつ自己紹介をしていただくとともに、現状の困り感や問題と感じていることを語っていただきました。その中で出てきた課題は下記のとおりです。

① 支援学校に看護師がいない(宮古)

宮古島に1校しかない小中高一貫の特別支援学校に看護師が配置されていないとのこと。

そのため、医療的ケアを要する児童については完全付き添いを求められているのが現状である。未就学児の段階までは共働きが可能なのに、就学で仕事を辞めざるを得なく、家庭の経済的ダメージが大きい。配置を求める声をあげても「あなた一人のために配置することはできない」との返答があり、多くの児童家族が必要性を強く感じていることが伝わらない。

② 療育センターが無い、入所施設が無い(宮古)

- ・いつまでも親が看てあげられないというとき、こどもの居場所としての入所施設がない。
- ・本島のような包括的な支援をしてくれるような療育センターが無く、リハビリも充分にうけることができない。

③ 渡航費助成の不足(北部、宮古)

- ・宮古では小慢を取得している場合は病児本人のみ年2回、往復1万までの助成
- ・上記の助成に対し金額、回数、小児慢性特定疾患のみということに不足感。
- ・身体が大きくなるにつれてシートを1列確保しなくてはならない。
- ・親一人だけの付き添いでは困難なので、両親そろって渡航する。
- ・小児慢性特定疾患助成もなく、装具をつくるため2~3か月おきに本島に出なくてはいけない。
- ・北部から南部の病院に通院、入院することも多大な負担となる。

④ 在宅支援の不足(北部、宮古)

- ・近隣(負担のない距離)に通所施設がない
- ・施設自体の数も少なく、対応の良い施設に集中している
- ・名護まできたら それなりの支援はあるが、国頭には殆ど支援がない。
- ・日中一時支援がない(あるいは存在を知らない)
- ・相談員の存在を知らない、相談員が足りないことで様々なサービスを知れない(受けられない)。
- ・週末の預かり先がなく(知らず)、きょうだい児へのケアができない

⑤ 情報の不足(北部、宮古)

- ・同じ疾患、障がいの家族と出会うことが少なく、インターネットに頼りきり。
- ・制度や助成金の情報を知らず、損をしていることが多々ある。

- ・ いろんな情報が入ってこなくて、子どもの将来もこの先の生活も不安。
- ・ 就学等の予備知識がなく、入学時期直前で慌てるがあった。
- ・ 役所の担当者の情報力の差で、同程度の障がいでも受けられるサービスに差が出ている。
- ・ 必要な情報を必要とするタイミングで受け取ることができれば。
- ・ 経済的に困窮している中で長期入院しなくてはいけないのに、がじゅまるの家の存在を知らず金銭的にも精神的にも大きな負担があった。

⑥ 親・家族のレスパイトができない、就労困難（宮古）

- ・ 様々な支援が不足していることにより付きっきりの状況から抜け出せず、心身ともに休めない。
- ・ 経済的に困窮していくものの離れることができないので就労できない。

⑦ これからの親の会の在り方（北部）

- ・ 若い世代の親にとって親の会は必要とされているのか分からない。
- ・ 日々忙しくしている親にとって会に参加するのは難しい。
- ・ 会によっては話しづらい、壁を感じることもある。
- ・ 親同士のつながり方を今一度考えなくてはいけないのでは。

第二部

第一部で語っていただいたことを上記 6 点の課題としてまとめ、これらを解決するためにはどうすればよいか、どうしてほしいのか、みなさんで議論しました。

① 支援の情報不足を解消すること

- ・ どのような制度、助成があるのか、オリジナルのハンドブックがあるといい。
- ・ 多くの家族に情報がいきわたるようなネットワークづくり。
- ・ 支援者(特に相談員や役所窓口)には、しっかり情報をもっていてほしい。

② 多方面で支援のネットワークを強化すること

- ・ 医師間や地域の支援者、こどもと家族を支える人たちのネットワークづくり。

③ 専門医や専門療法士などの派遣充実化

- ・ 定期的に専門医を本島から派遣してもらうことで負担が軽くなる。
- ・ リハビリは子どもの成長に大きく関わること、月 1 回しか受けられない状況を変える仕組みづくり。

④ 一緒に声を出せる仲間をつくる

- ・離島で同じ疾患、障がいの仲間を見つけるのは困難だが、違う状況であっても支えあって互いの問題を解決していく仲間をつくる。
- ・親の会に参加することに抵抗を感じる親もいると思うが、在りつづけることに意味がある。
- ・親同士だからこそ理解しあえることがあるのだから、ピアサポートに力を入れていきたい。

所感

休日にも関わらず多くのご家族に参加していただくことができ、様々な現状を涙いっぱい溜めながらお話しただけしたこと、心から感謝いたします。

お母さんたちのお話を聞いているうちに、僻地ならではの課題だけでなく、サービスが充実しているといわれる本島南部でも数年前に同様の課題があったなあと思返していました。当会でも県内・外での解決事例等情報を集め、定期的に情報交換を行っていく必要があると考えます。様々な悩み・困難を抱えながらも、逞しく笑顔を絶やさない北部地域、宮古島のお母さんたちでした。北部らしさ、宮古島らしさを生かしたこども医療支援のネットワークの充実化を望みます。 [吉本 しのぶ]

3) わらびの会「10周年記念座談会」開催

日時：平成27年11月18日（水）19：00～21：00

会場：沖縄県医師会 会議室2

出席：真栄田 篤彦（わらびの会 理事長）、宮城 雅也（わらびの会 副理事長）、具志 一男（ぐしこどもクリニック院長・わらびの会 監事）、安慶田 英樹（こども医療センター 母子センター長）、田頭 妙子（全国心臓病の子どもを守る会 役員）、真栄城 守信・儀間 小夜子（わらびの会 理事）

テーマ：わらびの会、過去～現在～未来

第1部：「こども医療支援 わらびの会」設立からこれまでのあゆみ

わらびの会のこれまでの活動の評価とこども医療センターができてことにより、こども医療で何が一番変わったかなどが話しあわれた。

第2部：わらびの会の未来の方向性

未来の方向性として行政の中で「こども医療支援協議会（仮称）」の設立ができることを望む。

4) その他の広報活動

- ① 会誌「わらびの会だより 10号」および「がじゅまるの家だより 13号・14号」を発行して広報に努めた。会員、一般市民、医療関係者、全国の滞在施設、各市町村、鹿児島県本島及び大島郡（奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島）の関係部署へ送付しました。
- ② 昨年リニューアルしたわらびの会ホームページ及びがじゅまるの家ホームページにより、会活動や情報をタイムリーに広報することに努めました。

- ③ マスコミをとおして、わらびの会活動及び「がじゅまるの家」の広報を行った。
- ④ 第20回幸せの黄色いレシートキャンペーン交流会及び贈呈式に参加、広報活動を行った(5/10)。
- ⑤ 県民公開シンポジウム 「どう変わった沖縄県の小児医療～県立南部医療センター・こども医療センター開院10周年を迎えて～」にて発表「こども医療センターが開院して—わらびの会設立と活動—」(10/4)
- ⑥ 沖縄地域社会ビジョン大学院2015にて発表「市民運動から社会のしくみ～こども病院設立の運動とこども医療支援への取り組み～」(11/13)

IV その他、目的を達成するために必要な事業

1) ピアサポート活動

昨年に続き今年度も、沖縄県障害者社会活動推進事業補助金の交付を受け、ピアサポート活動及びセミナーを実施することができました。心より感謝申し上げます。

① こども医療支援ピアサポート活動の実施

平成27年4月～平成28年3月

活動日：毎月第3週目の水・木・金曜日 午前10時～午後3時

活動場所：こども医療センター 1階小児外来 入口カウンター

活動団体：10団体


活動回数：上半期4～9月 18回、サポーター20名延べ73名

下半期10月～3月 18回、サポーター22名延べ71名

相談件数：24件

**こども医療センターには
ピアサポーターがいます。**

ピアサポーターは、病気や障がいのある子どもを育てた経験者です。
ひとりぼっちで悩む時、この先どんな生活になるのか不安や戸惑いの時
ピアサポーターはあなたの心に寄り添います。



ピアサポーターは
1F小児外来入口カウンターで
お待ちしております。
お気軽に声をかけてください。

～相談日～
**毎月第3週目の
水 木 金**
時間は 10:00～15:00

*相談内容に関しては守秘義務を遵守いたします。

NPO法人 こども医療支援 わらびの会
電話：098-888-6605 メールアドレス：info@warabinoiki.org

② こども医療支援ピアサポートセミナー

〔第4回 初級編：14名受講〕

日時：平成27年11月28日(土) 9:25～17:30

会場：沖縄県口腔保健センター（沖縄県歯科医師会）

講師：本田睦子（認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク 事務局）

講義内容／『難病ネットとピアサポート活動への理解を深める』

講師：福島 慎吾（認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク 専務理事）

講義内容／『ピアサポートの心構え、子どもの難病と公的な支援』

講師：田中千鶴子（昭和大学 保健医療部 看護学科 教授）

講義内容／『難病や障がいのある子と家族の理解と支援』

講師：諏訪 茂樹（東京女子医科大学 看護学部 人文社会科学系 准教授）

講義内容／『相互支援のためのコミュニケーションスキル1・2』

[第2回 ステップアップ編：10名受講]

日時：平成27年11月29日(日) 9:00~12:00

会場：県立南部医療センター・こども医療センター 2階講堂

司会：本田 睦子(認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 事務局)

ファシリテーター：福島 慎吾(認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク 専務理事)

発表者：平岡 まるみ(認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク 理事)

発表者：小浜 恵子(北部地域障がい児・者親の会「綾」)

発表者：城間 米子(沖縄訪問教育親の会 会長)

[第2回 石垣島 ピアサポート勉強会：12名参加]

日時：平成27年11月30日(日)13:00~15:30

会場：沖縄県 八重山合同庁舎 1階会議室

講師：田中 千鶴子(昭和大学 保健医療部 看護学科 教授)

内容／『難病や障害のある子と家族の理解と支援について勉強会&交流会』

③ピアサポート活動振り返り会

[H27年度 前半]

日時：9月11日(金) 13:30~15:30

場所：ファミリーハウス「がじゅまるの家」事務所

参加人数：8名

意見：ピアサポートの認知が低い、活動を知っていても実際にサポートを受けた人は少ない。

活動は病院のポスターで知ったという人が多かった。病棟での活動も行ってほしいとの要望があるなどの意見がでました。

[H27年度 後半]

日時：3月11日(金) 13:30~15:30

場所：ファミリーハウス「がじゅまるの家」事務所

参加人数：10名

意見：心疾患児の家族が多くみられ、対応としては傾聴、会の紹介や情報提供 など行った。

活動以外に病院内の受付や会計などの案内が多かった。

2) 「がじゅまるの家」における預かり保育の実施

平成27年度は、昨年度の繰越金(58,984円)により1人実施した。預かりは与論町からの病児で母親と2人でハウス利用。母親が病院受診のため依頼した。「初めて預けるため、どのようになるか心配でしたが、ずっと眠っていたと聞き安心しました。気持ちよく抱っこしてもらっていたのだなあ。本当に助かりましたありがとうございました。」母親からのありがとうの声を頂いています。

- ・預かり保育寄付金 繰越金額：58,984円
- ・実施期間：平成27年4月～平成28年3月
- ・預かり病児：1人（年齢：0才）
- ・預かり時間：3.5時間
- ・利用家族：1家族
- ・保育士：1人

3) 第3回 わらびの会 合同クリスマス会開催

病気や障害のある子とそのきょうだいのために「こどもが主役のイベント」を実施し、日頃の頑張りを称える。いつも看病しているお母さん・お父さんたちへリラックスできる時間を提供することを趣旨に開催しました。今年度は金秀青少年育成財団のご支援、昨年に引き続き多くのボランティアの皆さんのご協力をいただき、開催することができました。心から感謝申し上げます。



日時：平成27年12月12日（土）14:00～17:00

場所：県立南部医療センター・こども医療センター 1階小児外来

参加者：221人（こども86人、大人60人、スタッフ及びボランティア約75人）、メディア 2社

協力（ボランティア）：沖縄国際大学・琉球大学・県立看護大学の学生、病院ボランティア、保育士グループ（一般社団法人きつずまある）、マッサージ士、個人、在沖米空軍嘉手納基地ボランティアグループ

プレゼント提供：金秀青少年育成財団（助成金）、在沖米空軍嘉手納基地

対象：わらびの会 各構成団体家族、入院中の病児家族、病院スタッフ、ボランティア他

おもちゃひろば、腹話術・バルーンアート・あんぱんまんショー・クリスマスライブなどのステージは「こどもが主役」、ゆんたくカフェではコーヒー、紅茶、お抹茶コーナーを設けゆっくりくつろいで頂きました。マッサージブースでは肩、手、足などのマッサージをしていただき、いつも看病しているお母さんたちへのリラックスタイム、癒やしの時間を提供出来たクリスマス会でした。また、パネル展示時で葉っぱを形どった希望のリーフに夢や希望を記入いただき作成した大木「きぼうのがじゅまる」のモニュメントをお披露目しました。

たくさんのご支援とご協力をいただきました。感謝申し上げます。



◇ 寄付（93件）、寄贈（167件）、多くのボランティアのご支援ご協力を頂きました。感謝申し上げます。

☆ ファミリーハウス「がじゅまるの家」利用者の声

[利用者ノートより 平成27年4月～平成28年3月]

* 今日は、島から来て「がじゅまるの家」で一泊させていただき、とてもゆっくり休むことができました。明日帰るけど、また来月も来たいと思います。本当にお世話になりました。

栗国村 Uさん

* 3人目の出産に向け4/8に沖縄に来て約1ヶ月半お世話になりました。思い返せば5/12に帝王切開の予定が5/7AM1:00に突然の破水陣痛、1人目、2人目も帝王切開だった私には初めての経験でパニック。ナイトスタッフさんに救急車を呼んでもらい、病院へ。それからすぐ緊急帝王切開して無事2,970グラムの元気な女の子が誕生。しかし、手術時にもいろんな問題があり、入院生活も少し長引くことに。でも、術後の経過も思ったより早く良くなり、急遽退院できることになった時も、スタッフの皆さんに温かく迎えてもらい本当に涙が出るほど嬉しかったです。私たち家族にとっては、本当に「第2の故郷」って感じています。これからもまた、お世話になる日があるので、皆様に会える日を楽しみにしています。『ファミリーハウスがじゅまるの家』が大好きです。本当にありがとうございました。

沖永良部 Sさん

* また.また.また お世話になります(笑)。退院後の初外来。退院後はびっくりする程汗をかくようになり自分で体温を調節できるようになりました。それだけで、本人も嬉しいらしく「汗かいたんだヨ！」と報告してくれます。当たり前のコトがこんなに嬉しいなんてと日々感じています。何ヵ月前まで伸びなかった身長も体重も毎月1cm近く伸び、体重も着実に増えてきています。同い年の子みたいには！とはいかないですが、本人なりに少しずつ成長できていることを嬉しく思います。他児と比べると、そして比べられるとマイナスに思いがちですが、これを受け入れていいところ探しがあれば…と思います。本人も「なんでぼくだけ？」と時々言うようになり、お兄ちゃんの方も「なんでうちだけ？」と色々な思いが、出てきました。その度にきちんとこたえています。疑問を感じるようになってきたようです。本人にも兄弟にもいつも+ (プラス) に考えられる人になって欲しいので、家族で話していきたいです。(いろいろお話ししてくれて、ありがとうございました。)夏休みになったらお兄ちゃんも連れて受診しに来たいと思います。又、その時はよろしく願います。

与論島 Yさん

* /3～7/28日まで長い間利用させていただきました。ありがとうございました。今回は3人目の妊娠で、上の子2人とも早産(未熟児)だったため、出産のリスクも色々あり島での出産は出来なため、医療センターに紹介され検診をすることになって、知らない土地での生活、体調のこと、精神面・金銭面で不安なことだらけでしたが「がじゅまるの家」の施設、スタッフの方々のおかげで無事37週まで経過することが出来、赤ちゃんの体重も推定2,000グラムを超えることが出来ました(3人目にして私には初めての経験です。)約1ヶ月の利用中には、夫・娘・息子・母・祖父・姉の家族も利用させていただき、とても助かりました。医療センターやがじゅまるの家が出来たいきさつの本を読ませていただきました。たくさんの方々のおかげで、とてもいい施設が出来て、利用させていただき、本当に感謝です。ありがとうございました。

沖永良部 Hさん

* 石垣島からこども（男の子）の外来、台風前で心配でしたが泊まることができました。こどもは初の2人でのお泊りでウキ^{×2}ルン^{×2}で喜んでいました。スタッフの皆様もとても親切でホッとしました。こどもより親は不安です。早くよくなりますように。ありがとうございました。

石垣市 Sさん

* 8月24日、台風15号により予定していた検査が延期になり残念でした。また次回予約をとってまいりたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。家族としてはとてもリラックス出来る空間で、とてもとても感謝しています。今回2回目の宿泊でしたが、長男は覚えていて「がじゅまるの家」を見ると、「けんちゃん、おぼえている！」とすぐに笑顔を見せて走りだしました。おもちゃや絵本も沢山あって、本当に感謝、感謝です。大変お世話になりました。

沖縄県久米島町 Sさん

* 突然このつばめの部屋から離れる事になり、少し淋しさを感じているところです。がじゅまるの家で生活をして2ヶ月余り。正直言って県内に母子に優しいファミリーハウスがあることすら知らず、入居してみても驚く事ばかりです。キッチンを始め家具類全て揃っており何不自由なく生活できるとは。しかも悩みがあれば儀間事務長始めスタッフの皆さんも共に知恵を出し合って色々アドバイスしてくださり料理のレシピ、県外へのアクセス等色々ありましたが、きちんと丁寧に教えて頂き本当に感謝でいっぱいです。孫のおかげで縁あって皆さんと共に生活出来たことは私にとって貴重な体験をさせて頂き、心折れそうになった時でも皆さんの笑顔に癒され元気を取り戻す時が多々あったものです。これからも娘、孫を元気づける様、努力していきます。本当に娘共々大変お世話になりました。ありがとうございました。

沖縄県宮古島市 Sさん

* 長い間お世話になり大変ありがとうございました。弟の結婚式のため3日間沖縄に来たつもりが次女の手術、入院。不安でいっぱいでしたが、優しく迎えて頂き大変ありがたかったです。妻が下の娘につきっきりのため、上の娘にさみしい思いをさせたくありませんでしたが、おもちゃや本が充実していたり、友達が出来たりで本当に助かりました。普段仕事に追われる毎日ですが、家族の大切さ、みんな一緒にいるだけで幸せなんだと考えさせられる日々でした。家族の絆がより強くなったと思います。皆様大変ありがとうございました。

大阪府大阪市 Nさん

* 今回で3回目になります。昨年12月に赤ちゃん（6ヶ月）だった息子が手術をすることになり離島からたくさん不安と息子を抱えて来た事を思い出しました。「がじゅまるの家」でスタッフの方々から気にかけてもらい不安も少しずつ消え、自宅のような気持ちで利用できた、という思いを昨日の事のように覚えています。そして今回も同じで1歳6ヶ月になった息子を見て、皆さんが「大きくなっている！」「歩いている！」と声かけして頂いて嬉しく感じました。前回までズリバイしか出来ず、プレイスペースで遊ぶことも出来なかった息子が、部屋に入るのも嫌がり楽しそうに遊んでいる姿を見ていると本当にこの1年色々あったなあ。こんなに成長してくれて・・・と1人胸がいっぱいになっています。これからも年に1回来ることになります。病院はあまり気が進みませんが、「がじゅまるの家」を利用できるのは本当にすごく嬉しくて楽しみなので、また来年おじゃまします。本当にありがとうございました。

西表島 Tさん

* 今回で5回目のがじゅまるハウス。兄弟の三角頭蓋のOPで子供がここが大好きで何度も安心してくることができました。弟が夏休みにOPして兄が12/18。無事終了一安心。4歳の弟は言葉も出るようになって、会うたび成長して感動するって毎回おばあちゃんが言ってます。兄の成長も期待しています。私は病院に泊まっていたけど、シャワーだけ使わせてもらったのがサッパリできてよかったです。あと2〜3回利用するかな？またよろしく お願いします。

山口県 Nさん

* これまで病院とは縁のない生活をしていて家族が病気になってはじめて医療センターが離島の重症患者を搬送する病院だということも最近知りました。そして離島から家族が入院することになって旅費、宿泊費の大変さ、“がじゅまるの家”の存在の大きさ本当に助かりました。沖縄県の予算もこの方面に使われてほしいと願います。

宮古島市 Iさん

* 茨城から軽度三角頭蓋のOPの為に約2週間、がじゅまるの家にお世話になりました。OPの不安や術後の子供の状態が痛々しく、気持ちも落ち込み気味でしたが、がじゅまるに帰ってくるたびスタッフの皆さんが明るく「おかえりなさい」と言ってくれ、子供の様子なども気にしてくれたり温かい対応にとっても癒やされました。部屋も綺麗で寄付の食料品や飲料水なども頂きとても助かりました。子供の経過も順調で無事に明日退院できそうです。次回は3ヶ月後の検診ですが、また皆さんに会えるのをたのしみにしています。ありがとうございました。

茨城県 Oさん

* 息子の手術で3度目の利用をさせて頂いています。毎回、がじゅまるの家がなかったら…スタッフの皆さんの思いやりがなかったら、どんな事になっていただろうとただただ感謝です。家に戻りしばらくするとここでの日々も忘れてしまいがちですが、イオンのイエローレシートは必ずがじゅまるの家に入れます！本当にありがとうございます。

石垣市 Sさん